

光葉ワーキングクラブメールマガジン



＜2021年6月号＞

168号 2021.06.01 配信

時が経つのは早いもので、今年もはや半分を過ぎようとしています。6月に入り緊急事態宣言も延長され、引き続き私たちの感染予防対策は継続となります。長雨の季節でもありますので、体調を崩さないようお元気でお過ごしください。

■同窓会だより

◆全国支部長会 5月15日(土) 10:30～12:00

坂東眞理子理事長・総長にご出席いただき、全国の支部長 43名とともにZoomによるリモート会議を行いました。画面越しでしたが、藤島アドミッション部長、伊藤キャリア支援部長から大学の入試状況、就職状況の説明を受けました。全国の支部長の前向きな取り組みで、去年は中止となった支部長会を初のリモート会議で開催することができました。

◆第48回 光葉同窓会総会 5月16日(日) 11:00～12:00

校歌も同窓会歌も心の中で歌う黙唱での開会でしたが、2年ぶりの比護和子同窓会長から「コロナ禍でも去年の様に活動を自粛するのではなく、対策を行ってできる限り活動してまいりましょう」との呼びかけがあり、また小原奈津子学長から直接お聞きした学園の現況や様々な取り組みは大変興味深く、母校の活躍を嬉しく伺いました。議事のための総会でしたが、46名が参加しました。緊急事態宣言下で、正門で体温チェック、各所にアルコール消毒液を設置、長机に一人着席という安全措置を取りながらの開催でした。

＜予定＞

◆2021年度幹事会 6月19日(土) 11:00～12:00 学園本部館 3階大会議室

坂東眞理子理事長・総長、小原奈津子学長をお迎えして、当日は感染予防対策を充分に行い開催いたします。学年幹事の皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。

■学園だより

◆昭和女子大学創立 100 周年記念特別講座「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」

5月1日(土) 13:10～14:40 在学生と卒業生、教員がともに女性の生き方、昭和女子大学の未来について様々なテーマで討議しました。(対面とオンラインによるハイフレックス開催)
今月のメルマガでは同窓会ワーキング委員が登壇したプログラム5『母校(母港)に期待すること』を特集しております。当日、参加された学生さんがコメントを寄せてくださいました。

◆【思い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展～100年分の輝きとともに、ネクストステージへ～】

【期間】2021年5月14日(金)～6月20日(日)

【時間】午前10時～午後5時 【休館日】土曜日・日曜日 ※5/16(日)、6/20(日)は開館

【場所】昭和女子大学7号館1階 光葉博物館

《お詫び》

5月14日のメールで緊急事態宣言延長に伴い、5月中は学内関係者限定公開となり、一般の皆様への公開は6月1日（火）以降になった旨をお知らせいたしました。6月20日（日）を29日と誤って掲載しました。29日は開館していません。訂正してお詫びいたします。

■ 広げよう光の葉

御喜 千代 さん

1986年 日本文学科卒（世田谷支部）

「大切な人が入院・手術になったときの病気の値段がわかる本」

大学を卒業して半年後、渋谷の事務所で父が倒れた。母も私も父がケガでもしたかと病院へ向かったが、そこで見たのは、吐血している父の姿だった。医師から「出血が止まらなければ、すぐに手術をします」と説明があった。私たちは、「お願いします」と言うことしかできなかった。緊急手術が始まって約10時間、手術室から出てきた医師から「膵臓と脾臓を含めて胃を全摘しました。ご覧になりますか？」と言われた。誰が見るの？怖い！後日、ステージIVの胃がんだと説明を受けた。「余命5年」という医師の言葉を信じて退院した父は、5年計画で会社を閉める準備を始めた。しかし、術後6カ月で腸へ転移、9カ月で他界してしまった。

父が病気と闘っていた頃、家族は別の事で苦戦していた。父が先輩を頼って入院した先は特別病棟で、1泊5万円の差額ベッド代がかかった。月額150万円の支払いは、いつまで払い続けられるのか？と不安を抱えながら看病をしていた。

何故、5年が9カ月だったのか？疑問を持ったまま、父の会社と自分の仕事に追われ、5年が経っていた。その頃、外資企業への転職話があった。ベビーオイルで知られた会社のイメージから気軽に転職を考えていたが、その会社は利益の大半を手術製品から得ていたのだ。入社後、アメリカ研修のための選抜テストが続き、解剖や手術の方法などを日本語と英語で覚えなくてはならなかった。なんとか研修メンバーに滑り込んだが、アメリカでは想像を絶するトレーニングが待っていた。英語での授業、動物による手術、死体解剖だった。

帰国後、腹腔鏡下外科手術の開発や医師へのトレーニングに追われる日々の中で、父のように、そして家族が苦しまないためには、予防が一番であると実感した。

大切なのは、病気を理解するための知識、正しい情報、そして治療に取り組む精神力。それらを多くの人に伝えたいと思った。

それ以来、医療コミュニケーションに携わってきた。知っている知らないでは大きく違う病気に関わることを1冊の本にまとめる機会に恵まれた。それが「大切な人が入院・手術になったときの病気の値段がわかる本」だ。

学生時代、人見楠郎先生が「世の光となろう」という言葉に込められた意味を熱く伝えてくれた。人として何を目指し、すべきかを教えてくれたこの言葉を執筆中に思い出した。わたしは「世の光」になれるのか。コロナとの共生の時代、「なろう」と何事も1つ1つ積み重ね、努力を続けることが今まで以上に求められる時代になった。いつの時代にも通ずるこの言葉を胸に、まだ見ぬ光を目指していきたい。

勤務先：株式会社電通パブリックリレーションズ

職 業：医療アドバイザー・医学ジャーナリスト

【End】

昭和女子大学創立100周年記念特別講座

「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」

2021年5月1日、女性教養講座の一環として、「創立100周年記念特別講座」が開催されました。昭和女子大学の強みでもある“キャリア”と“グローバル”そしてすべての基本となる“健康”について考え、“本学の未来”について卒業生と在學生で語る会の4テーマ、5セッションが実施されました。各セッションともに活発な議論が交わされ、在學生はオンラインで聴講しました。

新たなステージへのスタートを切った昭和女子大学について、同窓生が胸襟を開いて語り合う「母校(母港)に期待すること」には、卒業生4人と在學生3人が参加しました。在學生には「大学の学びを将来にどのように活かしたいか、大学に期待するものは何か」について聞きました。卒業生には「大学での学びや経験が現在に活かしていること。また、在学中は嫌だと思っていたことが社会に出ると役立つ経験」などを聞きました。

在學生からは卒業生に対し、「社会的課題を見つけるにはどうすれば良いか」「今後、人々を支えるにはどのような勉強が必要なのか」などの質問がでました。また、「今後、より一層学外での設計競技会等に参加して、自分自身の力を試したいと思っている」など、意欲的な意見も出ました。また、「女性教養講座や文化講座の開催回数が多く、年に1回開催される学寮研修へ参加する意味が分からない」など、課題と考えていることへの発言もありました。

卒業生からは、「校則が厳しかった」、「女性教養講座や文化講座等の教養系講座が退屈だった」、「学寮研修が面倒だった」など、在學時は「嫌だ」と考えていた経験が語られました。一方で、「社会に出るとそれらの経験が人との会話に役立ったり、社会における振る舞い方を自然と身につけられる手段だったりしたことに気づくことも多々あった」という経験が披露され、「昭和女子大学にしかない、貴重な経験を存分に味わって欲しい」と、在學生に語りかける場面もみられました。さらに、在學生に向け「ボストン昭和やダブルディグリー等の制度も整備されていることから、多くの異文化コミュニケーションを学生時代に積極的に取って欲しい」と呼びかける卒業生もいました。在學生、卒業生から昭和女子大学に望むこととして、さらなる国際化、多様化の推進▽IT系人材育成のためのシステム作り——などの提言がされました。

本セッションは、『母校』は、社会の荒波に出た卒業生がいつでも集い、鋭気を養える『母港』であってもほしい。大学には、卒業生、在學生の連携をさらに深めるような機会を作っていただき、卒業生も次の100年に向けた新たな一歩を踏み出した大学の一助となるよう尽力したい」というまとめをもって、閉会しました。

【ファシリテーター】木村 葉子（毎日新聞 学生新聞編集部長、毎日小学生新聞編集長）

【登壇者】市山千奈美

（ボッシュ株式会社 人事部門採用・人材マーケティンググループマネージャー）

杉山 麻喜（株式会社イーライフ 取締役CMO）

内藤 諭子（会計検査院 第4局 農林検査第1課 副長）

【学 生】大住 愛音（現代教養学科3年） 篠 香楓（環境デザイン学科3年）

瀬戸井 舞（管理栄養学科3年）

【卒業生の感想】

これまで、卒業生が登壇し、在學生に対して授業を行っても、座席の距離がありすぎるため、活発な質問や意見を貰って議論するまで至ることはほぼありませんでした。しかしながら、今回は、同じ壇上で在學生達と議論することができました。思いがけず、自分が在學生だった頃よりも、社会に対

して真摯に向き合っている姿が、印象に残ると同時に、彼女達に、卒業生として、何をして上げることが出来るか、と考える大変良いきっかけになりました。 【内藤 諭子】

在学生、卒業生がざくばらんに語り合える、とても貴重な機会をいただきました。時代は違っても同じ学び舎で青春時代を過ごした同窓生は、すぐに打ち解けることができることを再認識しました。人材の宝庫である卒業生と在学生、大学との縦横の絆を深め、いかに発展させていくかが、次の100年に向かった大切なテーマであると考えます。微力ではありますが、在学生や母校のお役に立てるよう尽力したいと思います。 【木村 葉子】

【在学生の感想】

この度このようなセッションに在学生代表として参加でき、非常に貴重な経験ができたこと心から感じております。はじめこのセッションのお話を頂いたときは、正直自分のような学生が代表として前に出て良いものなのだろうかと不安な気持ちもありましたが、卒業生の方々をはじめ、関わってくださった全ての皆様からの温かいお声がけがあり、乗り切ることができました。改めてお礼申し上げます。またそのような温かいお言葉を頂けるのも、この昭和学園ならではの縦の繋がりがあからだと感じました。100周年という記念すべき年に自分が学生としてこの学園に在籍できたこと、そして縦の繋がりを強く感じられたこのセッションに参加できたことの幸せを噛みしめながら、今後も学問に励んで参りたいと思います。

この度はこのような貴重な機会を与えて下さり、誠にありがとうございました。今までも、そしてこれからも、この昭和学園がより良い学びの場であることを強く願います。 【大住 愛音】

100周年記念「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」に在学生として参加し、昭和女子大学についてまた大学生として今やるべきことを改めて考えることができました。

実際に活躍されている卒業生の方と本音でトークを繰り広げることができ、貴重な機会を与えていただきとても勉強になりました。3名の卒業生全員が海外と日本の懸け橋のようなグローバルな人材になっており、とても憧れました。英語が上手に話せなくてもいい、しかし多様性の理解は必要だということは素晴らしい考えであると感じました。また、お話の中で特に私が印象に残った言葉は「大学生活4年間で逆転できる」というお言葉です。大学4年間、地道にやり続ける努力があれば優秀な大学の学生にも勝てるとおっしゃっており、これから努力し続ける人間になろうと思いました。

このセッションに参加して、昭和女子大学は創立100年という歴史の中で素敵な女性をたくさん育て上げている大学であると実感しました。私もこの大学で学ぶ一人としていろんなことを経験し、成長し社会で活躍する人材になりたいと強く思いました。 【篠 香楓】

卒業生の皆様と共に母校について考えるという大変貴重な機会をいただけて感謝しております。私の体験、卒業生の皆様の在学時のお話などから、学校行事には必ず意味があり、意図する能力を引き出すことができるものなのだ実感致しました。この女性教養講座を通して、多くの学生がその意義を感じられたのではないかと思います。

私は卒業生の皆様とお話を通して、昭和女子大学だからこそ持てる縦の繋がりを感しました。昭和ならではのカリキュラム。在学時に嫌だと感じていたこと。それらはどの年代の同窓生でも共感でき、談笑に繋がりました。

大学生の生活スタイルは、集団から個人に変わり、共有できるものが中高生時代に比べ少なくなります。そのような中で、卒業生の皆様と繋がりを持てるのは卒業生の皆様が母校を母なる港にして下さったからだと思います。私たちも在学生も母校に期待するだけでなく、より良い母港にできるようにしていきたいです。 【瀬戸井 舞】